

(仮称)ウィズプラン(市川市男女共同参画基本計画)(案)についての  
パブリックコメント実施結果

市川市総務部  
ダイバーシティ推進課

○実施期間

令和7年11月4日(火)～令和7年12月3日(水)

○ご意見を提出していただいた方の人数及び件数

媒体	人数	件数
① インターネット	5人	21件
② 実施担当課受付(持参)	0人	0件
③ 郵便	0人	0件
④ FAX	0人	0件
⑤ その他	0人	0件

○ご意見への対応

対応内容	件数
(1) ご意見を踏まえ、対応するもの	6件
(2) 今後の参考とするもの	3件
(3) ご意見の趣旨や内容について、考え方をすでに盛り込み済みであるもの	4件
(4) その他(案そのものに対するご意見でないもの等)	8件

【提出いただいたご意見等の取扱い】

- ・本意見募集と関連のないご意見等が提出された場合は、そのご意見については公表していません。
- ・いただいたご意見は、類似の意見等とこれに対する結果及び理由を取りまとめて公表しております。
- ・ご意見を公表することで、個人または法人の権利、競争上の地位その他正当な利益が害されるおそれがある場合は、修正をしております。
- ・誹謗・中傷等および差別的、差別を助長するおそれのある表現が含まれる場合は、修正をしております。

○ご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
1	ウィズプランのテーマについて。どれも「今努力して生きている人」の努力を当たり前と受け取りすぎている気がする。他人に何かを譲る余裕がないことが問題である。 なのでこんなことを議論しないで、少子化対策といじめ問題と教育の質を上げていけば、人は問題を解決する力を付けられる。	すべての人が互いに人権を尊重し、いきいきと生活していくためには、男女が共に様々な分野で活躍し、積極的に参画できる社会づくりが必要と考え、本プランの策定を進めております。 引き続き男女共同参画の推進に努めてまいります。	(4)
2	ツッコミどころだらけなので、もう少し考えながら全体を見直してもらって、計画書を修正してもらいたい。	パブリックコメントや審議会で多様な見地からご意見をいただき、プランの策定を進めてまいります。皆様にご理解・ご協力をいただけるプランとなるよう引き続き努めてまいります。	(4)
3	ジェンダー平等というのは聞こえはいいかもしれませんが、本計画では女性にしかできないことや女性の特性を尊重することが盛り込まれていません。 出生数が 2.0 人を下回り、人口減少が進んでいる昨今、女性に求められる最も重要なことは結婚して、かつ、2 人以上出産をしてもらうことで、それに全力を傾けることは当然であり、それを達成できていない状況で男女共同参画事業を推進することは時期尚早です。 個人的には、出生率が高い自治体は、女性が生活しやすいと思いますので、そこを目指してほしいです。	すべての人が互いに人権を尊重し、いきいきと生活していくためには、結婚や出産の有無にかかわらず、様々な立場や状況において、男女がともに活躍できる社会を目指していくことが必要であると考え、本プランの策定を進めております。 引き続き男女共同参画の推進に努めてまいります。	(4)
4	近年、民間企業、官公庁、各自治体で男女共同参画事業を推進してきた結果、女性を優遇し過ぎて逆差別になっている事例を数多く見聞きする。端的に言うと、あまり優秀ではない女性が、女性であるということを理由に出世しているという事例。 これらを踏まえて市川市では過度な女性優遇に歯止めをかけることも検討して計画に盛り込んでもらいたい。	本プランは、様々な場面で男女がともに活躍することのできる男女共同参画社会の実現を目指して策定を進めております。 誰もが活躍できる社会に向け、ジェンダーから生じる課題にアプローチする事業に取り組んでまいります。	(4)

5	<p>男女の平等について。アンケートを取って統計も出しているようだが(P10)、何に不平等を感じているのかが不明。世の中生きるために必要なことを全て自分でやるわけではなく、向いてることを仕事にしてみんなで分担しているわけで、「自分はこんなに頑張っているのに」という不満は誰からも出る。全ては十分な対価が支払われていないことが問題。それは政府が過度に消費を促すから収入が不足することに起因する。立場の不平等をどこに感じているのか、もっとヒアリングしないと、ざっくり聞いてしまったら、ただの立場の違いについても「同一でない」ことを不平等だと回答する人も出てくる。平等が何かを理解している人にアンケートを取らないと正しい統計にはならない。例えるなら向いてることに同じだけ努力しても、ハンドボール選手と野球選手で収入差が出ることは不平等とは言わない。</p>	<p>市川市の現状や課題を把握するために実施したアンケートについては、内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査(令和4年)」を参考にいたしました。また、「社会全体」における平等感だけでなく、家庭や職場、政治や社会通念といった場での男女共同参画の推進についても調査しており、その結果に基づいて計画内容を検討しています。今後も国のアンケート等を参考にしながら調査、分析していきます。</p> <p>なお、本プランには、詳細なアンケート結果の記載がなかったことから、アンケート結果を掲載している市川市公式 Web サイトの関連ページの記載を追加します。(第4章 4 計画の見方)</p>	(1)
6	<p>P.11 でコロナ禍以降にDV面談件数が増加したことを挙げていますが、基本目標ではコロナ禍については一切触れていないので、支離滅裂な計画書です。なぜコロナ禍前後で比べる？コロナ禍前はどうか？コロナ禍が関係しているのであればそれに対策すべきでは？</p>	<p>「コロナ禍」という表記については、相談件数に変化のあったタイミングがイメージしやすくなるよう表記したものでしたが、コロナ禍に対する施策の必要性を想起させるような誤解が生じないように記載を変更いたします。</p>	(1)
7	<p>ウィズプランが抽象的過ぎるので、細分化してそれぞれで基本計画を策定すべきではと思う。例えば、女性の社会進出とDVは全く別分野で対処方法も異なるが、同じ計画にまとめるのは違和感しかない。</p>	<p>本プランは、男女共同参画社会の実現に向け3つの基本目標を設定し、目標達成に向けた課題に対するアプローチをそれぞれ定めております。男女共同参画社会の実現には、暴力のない社会も不可欠であり、切り離せない解決すべき課題であるという考えから本プランの基本目標の一つに位置づけています(基本目標Ⅱ)。</p>	(4)

8	男女共同参画社会の実現に向けて基本目標や個別課題が分かりやすく整理された反面、多様性なども含む幅広い内容となり女性についての施策が手薄となってしまうと危惧する。ダイバーシティ推進課として扱う内容も多岐にわたりマンパワーを増やすことも必要ではないか。	女性の活躍に関する内容は、「基本目標Ⅰあらゆる場面で男女がともに活躍できる社会の実現」として、大きく位置付けており、本プランの柱となっております。 引き続き、男女共同参画の推進に取り組んでまいります。	(3)
9	市民のアンケートでは男女の不平等感の解消に至っておらず、固定的性別役割分担意識が残っている現状の中、これからの世代への教育はたいへん重要であると考えます。審議会でも教育の部分が抜けてしまったことについて指摘があり、施策の方向性の中で含まれるようにするとのことであったが、ウィズプランの中で関連事業にしか含まれておらず広く人権教育というくくりでは男女共同参画についての教育がなされるのか疑問に思う。	「教育」については、施策の方向性(1)の中で「意識の醸成」と記載しており教育を含めた施策を考えておりましたが、教育を含めた様々な場での必要性を明確にするため、施策の方向性(1)の記載を修正いたします。 なお、関連事業を含めた人権教育を通じて男女共同参画の推進は図れるものと考えております。	(1)
10	男女共同参画への理解・意識向上のために、著名人を招いた講演会を市川市でも実施してほしい。著名人として、●●さん及び○○さんを招くのはいかがか。世界的ミリオンセラー作家や、日本文藝家協会の役員として活躍中の方は、著書では女性同士の友情やジェンダーに関する現代社会の問題を分かりやすく主題にしており、また、壇上に上がれば笑いが絶えないほど面白いトークをしていただけたらと思う。	講師については、ご提案の方を含め、市民等の皆さまに男女共同参画について興味・関心を持っていただけるような方を招き、周知・啓発を進めてまいります。	(2)
11	成果指標や市民の意識調査の集計の仕方が男女どちらのものか明確にされておらず、一人一人が望むライフスタイルになるには男女の協力が必須であり、特に男性の行動や意識変容が必要であるが、男性に限定した講座参加率や意識の変化が分からない状態になっているため、男女で分けた成果指標の導入を検討いただきたい。	成果指標については全体として設定しておりますが、アンケートの集計・分析は男女別の数値を踏まえて行っています。 なお、本プランには、詳細なアンケート結果の記載がなかったことから、アンケート結果を掲載している市川市公式 Web サイトの関連ページの記載を追加します。(第4章 4 計画の見方)	(1)

12	<p>個別課題 1「性別にとらわれないワーク・ライフ・バランス(一人ひとりが望むライフスタイル)の実現」において、市川市での男性の育児休業取得の現状を示すデータやその結果を踏まえた市として企業や個人に向けた意識変容のための具体的な取り組みが乏しいように感じた。個別課題 1 全体を通して、女性にのみ向けた政策であると受け取られる部分があると感じた。男性の育児休業取得やそのための男性の講座などへの参加は、課題解決のため重要な基盤であると考え。まずは、現在の市川市民における男性の育児休業取得率のデータを明らかにし、実際に男性の声を収集し分析することを検討いただきたい。その結果を踏まえた必要な支援策を実施することについても検討いただきたい。</p>	<p>本プランは、市民意識調査にて男女別の意見を収集し、分析を行っております。周知や講座など具体的な事業の実施に際し、今後の参考とさせていただきます。</p>	(2)
13	<p>男女の地位の不平等感が解消に至っていないことに対してどの施策を重視しているのかわかりにくい。</p>	<p>男女の不平等感の解消については、主に基本目標Ⅰに紐づく施策によって課題の解消に向けて取り組んでまいります。</p>	(3)
14	<p>これまでも情報発信などの啓発活動が実施されてきているが、人が多く集まる商業施設など、より多くの市民にアクセスしていくことも検討してはどうか。また市のHPでも女性の困りごとに関連するページへのアクセスがわかりにくいと感じる。</p>	<p>周知や講座など具体的な事業の実施に際し、今後の参考とさせていただきます。</p>	(2)
15	<p>本計画案で示されたDV防止及び被害者支援強化の方針に賛同するが、以下の検討を求める。</p> <p>「活動量」から「成果」重視への指標転換(実効性の可視化) 現状の「配布数・回数(アウトプット)」に加え、意識変容や行動変容を測る「成果指標(アウトカム)」の設定と公表を求めます。</p> <p>具体策:「暴力の認識率」「相談窓口の認知度」「被害経験者の相談実施率」などの数値目標化および定期的な公表。</p>	<p>本プランの評価は、成果指標および行動指標にて行う予定としております。</p>	(3)

16	<p>本計画案で示されたDV防止及び被害者支援強化の方針に賛同するが、以下の検討を求める。</p> <p>相談ハードルの解消と対象別アプローチの抜本強化 若年層、外国人、性的マイノリティなど、従来の枠組みでは支援が届きにくい層に対し、属性に応じた「相談しやすい環境」を整備してください。</p> <p>若年層向け：チラシ配布にとどまらず、ワークショップ型授業の実施や、SNS・動画を活用した発信を行うこと。</p> <p>多様性への配慮：外国語対応窓口のオンライン/LINE予約導入や、性的マイノリティ(アウティング被害等)および男性被害者も相談可能であることの明記。</p> <p>生活支援との一体化：保護命令等の制度支援に加え、住居・就労・転校など、生活再建に直結する支援との連携強化。</p>	<p>当該相談体制の充実等については、施策の方向性(9)、(10)、(13)、(14)に紐づく進行管理事業および関連事業により推進してまいります。</p> <p>なお、事業に対する具体的な提案については、今後の参考とさせていただきます。</p>	(3)
17	<p>本計画案で示されたDV防止及び被害者支援強化の方針に賛同するが、以下の検討を求める。</p> <p>支援の「質」と「持続可能性」を支える体制づくり 高ストレス業務である相談員の燃え尽きを防ぎ、専門性を維持するためのバックアップ体制を明記してください。具体策：外部専門家によるスーパービジョン(定期的助言)の導入、適正な人員確保、および専門資格取得への研修費助成など。</p>	<p>当該相談体制の充実については、進行管理事業24において実施する予定となっておりますが、相談体制の充実について施策の方向性においても明確になるよう、施策の方向性(9)の記載を修正します。</p>	(1)

18	<p>DVについて。家庭を持つことに見合った収入を得ている人が少ない。なんの準備もなく子供を産むことが大きな問題。日々の不満を弱いものに当たることがDVになる。逆に収入の高い人が相手を尊重しないこともDVになる。</p> <p>相手を尊重するということを学校でちゃんと教えないし、家庭というものが外からの干渉を受けない閉鎖的なものになってしまっているから学ぶ機会がない。ストレス社会で個人間の接し方が自由であればDVは減らない。DVをどうしたいのかわからないが、起きることを放置してDVが起きたあとに支援するというのであれば、被害は減らない。</p>	<p>本プランでは、「暴力で苦しむことのない社会の実現」を基本目標の一つとしており(基本目標Ⅱ)、施策の方向性(8)において、DV等の予防に関する施策を位置付けております。</p> <p>引き続き、DV等の暴力を許さない社会づくりと被害者等支援の充実の両面から、対策・支援に取り組んでまいります。</p>	(4)
19	<p>目標3にはそれぞれ数値が明確になっていないところがあり、特に地域のコミュニティを活性化させるためにサロン等の男女差の認知度や利用率の数値を出すべきではないかと考える。この男女差の数値を明確にすることによってジェンダー格差が起らない土台をつくることができることに加えて、なぜこの政策をする必要があるのかやその層にどのようなメリットがあるかといった、政策に対して市民に説得するための具体的な理由をつくることが可能になる。したがって、男女間の明確な数値をだすことによって、施策の満足度、理解度を上げることができると考えるため、検討していただきたい。</p>	<p>本プランは、市民意識調査にて男女別の意見を収集し、分析を行っております。</p> <p>なお、本プランには、詳細なアンケート結果の記載がなかったことから、アンケート結果を掲載している市川市公式 Web サイトの関連ページの記載を追加します。(第4章 4 計画の見方)</p>	(1)

20	LGBTについて。受け入れることでどうしたいのかわからない。正解は多様で誰かが幸せになれば誰かが不幸になる利益の奪い合いに過ぎない。LGBT だから保護されるべきという、なんの考慮や検討もない結論ありきの議論なら、税金を投じて考えるようなことではない。今ある方の中、ハマるものだけは受け入れて、個人の自由の範囲で自由にすればいい。	<p>本プランは、LGBTQ+の方のみならず、「すべての人がいきいきと暮らせる社会の実現」を基本目標の一つとしております(基本目標Ⅲ)。</p> <p>すべての人の人権が尊重され、多様な個性を認め合うことは、一人ひとりが力を発揮するために不可欠であると考えます。</p> <p>今後も、多様な立場への理解を促進するため、正しい知識等の周知および啓発に取り組んでまいります。</p>	(4)
21	LGBTQ+について、性的指向は人それぞれなので、施策を講じる必要性はないと思います。		